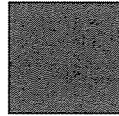


様式第1号（第2条関係）

令和5年3月30日

恵那市長
小坂 喬峰 様
（恵那市議会議長経由）

恵那市議会議員 堀 光明



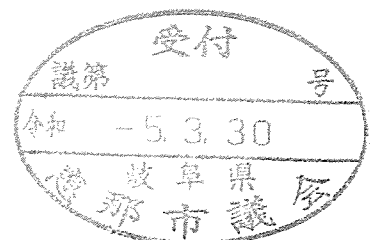
交付請求書

恵那市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、下記のとおり請求
します。

記

政務活動費請求金額 35,193 円

ただし、 令和4年 10月分～ 令和5年 3月分

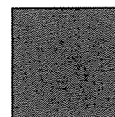


様式第2号（第2条関係）

令和5年3月〆〇日

恵那市議会議長
千藤 安雄 様

恵那市議会議員 堀 光明



収支報告書

恵那市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、令和4年10月分～令和5年3月分に係る政務活動費収支報告書を提出します。

記

1 収 入

政務活動費 35,193 円

2 支 出

単位：円

項 目	支 出 額	備 考
調 査 研 究 費	35,193	視察費等
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
合 計	35,193	

様式第3号(手引き第4章関係)

(本人作成書類)

令和4年度 恵那市議会政務活動費会計帳簿

議員名 堀 光明

(令和4年10月1日 から 令和5年3月31日 まで)

単位(円)【 1-2 】

日付		整理 番号	条例別表 の項目名	摘 要	領収額	政務活動費 充当額	支出可能額 (残)
2	8	4	調査研究費	2/8 宿泊費	13,850	13,850	46,810
2	8	5	調査研究費	2-8-9 バス代金	21,343	21,343	25,467
合計					35,193	35,193	25,467

注 この会計帳簿に記載する整理番号及び政務活動費充当額は、領収書貼付用紙の記載した整理番号及び政務活動費充当額と一致する。

様式第6号（第5条関係）

支出伝票

金額 13,850 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和5年3月³⁰日

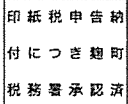
恵那市議会議員 堀 光明

- 1 支 出 先 東京都千代田区平河町二丁目四番一号
都市センターホテル
- 2 支出年月日 令和5年2月8日
- 3 支出の項目 調査研究費
- 4 支出の使途 宿泊代
- 5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	令和4年度	項 目	調査研究費
整 理 番 号	4	議員名	堀 光明
支出の按分の状況	(按分の内容) 朝食代を除く宿泊費のみ計上 (13,850 円 - 0 円 = 13,850 円)		
	(按分率) 100%	(政務活動費充当額) 13,850 円	
領収書の補足説明	2月8日～2月9日行政視察における宿泊代		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

領 収 証		No.A 090882
RECEIPT		
堀 光明 様		2023年 2 月 8 日
		
	但 御宿泊代として 上記の金額を領収致しました The above mentioned sum of money is duly received.	
 都市センターホテル		
東京都千代田区平河町二丁目四番一号 株式会社 東京ロイヤルホテル TEL.03 (3265) 8211 (大代表)		

支出伝票

金額 21,343 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和5年3月30日

恵那市議会議員 堀 光明

1 支出先 岐阜県中津川市蛭川 5328
株式会社 ごとう観光

2 支出年月日 令和5年2月27日

3 支出の項目 調査研究費

4 支出の使途 バス代

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

今回研修参加者 11 名分の領収書を代表者が受領しているため

様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	令和4年度	項 目	調査研究費		
整 理 番 号	5	議員名	堀 光明		
支出の按分の状況	(按分の内容) 総額のうち11人で割った金額を計上 (234,780円÷11人=21,343円 (端数切捨て))				
	(按分率) 100%	(政務活動費充当額) 21,343円			
領収書の補足説明	2月8日～2月9日行政視察におけるバス代 (貸し切りバス代、高速料金、乗務員宿泊代)				
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄					

領 収 証

No. 0001170

R5 年 2 月 27 日

新代会
伊藤 勝彦 他 10 名 様

金額	百万	千	円
¥	2	3	4 7 8 0 -

但し ☒ バス代金として ☐ ツアー代金として
☐ 旅行代金として ☐ その他 ()

2/10入金振込にて

上記金額正に領収いたしました

内訳

税抜金額

消費税額 () %



ごとう観光バス

Goto kanko bus

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町 2729-401
TEL 0573-26-1253 FAX 0573-26-1405
URL: http://S10bus.com

取扱者

研修参加者一覧

- ・ 林 貴光
- ・ 山内 敏敬
- ・ 太田 敦之
- ・ 服部 紀史
- ・ 伊藤 勝彦
- ・ 柘植 孝彦
- ・ 西尾 努
- ・ 鵜飼 伸幸
- ・ 後藤 康司
- ・ 町野 道明
- ・ 堀 光明

以上 11 名

原本は伊藤勝彦市議申請書に添付

令和5年3月¹〇日

恵那市議会議長

千藤 安雄 様

恵那市議会議員 堀 光

研修視察等報告書

恵那市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和5年2月8日 ～ 令和5年2月9日
- 2 研修視察先
 - 1日目、東京都 株式会社 ホリプロ
取締役 鈴木 基之様
東京都 学校法人 実践女子学園
理事長 山本 章正様
総務部長 富来 清貴様
 - 2日目、東京都千代田区議員会館
デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 丸山 頼子様
国土交通省 都市局 都市政策課 鈴木 豪様
文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム
大塚 和明様
国土交通省 自動車局 自動運転戦略室長 多田 善隆様
デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 小林 真之様
- 3 研修視察名
有志議員による、恵那市からの派遣職員の勤務状況の視察、内閣官房や国土交通省などの職員から、今後地方にとって重要となる政策説明による政策説明を聞き、本市の市政に活かすよう研修を行った。
- 4 研修視察者
鵜飼伸幸、堀 光明、伊藤勝彦、服部紀史、後藤康司、西尾 努
柘植孝彦、太田敦之、林 貴光、町野道明、山内敏敬、（11名）
- 5 概 要
 - 1日目、東京都内における視察及び説明
 - 2日目、東京都千代田区 衆議院第二議員会館にて研修
- 6 効 果
別紙報告書を参照ください。

様式第1号(手引き第3章関係)

(本人作成書類)

令和4年度 恵那市議会政務活動費実施(参加)記録書

議員名 堀 光明

1. 会の名称	恵那市議会 有志(新政会及び無会派議員)
2. 開催日時	令和5年2月8日 13時00分 ~ 14時00分
3. 会場	株式会社 ホリプロ 本社ビル
4. 参加議員名	鵜飼伸幸、堀 光明、伊藤勝彦、服部紀史、 後藤康司、西尾 努、柘植孝彦、太田敦之、 林 貴光、町野道明、山内敏敬
5. 参加人数	11人
6. 内容(目的)	恵那市から株式会社ホリプロに派遣されている職員がどのような役割でどのような勤務をしているのかを視察するとともに、ホリプロと恵那市との関係を構築することで、恵那市の新規の事業の提案を行うため。 1. 派遣職員の勤務状況の視察と聞き取り 2. 株式会社ホリプロの概要説明 3. 佐藤一斎特命大使としての概要説明 4. 恵那市におけるエンタメの可能性 上記について説明を受けた。

注1 関係書類を添付すること。

注2 事業毎に別様として作成すること。

様式第 1 号(手引き第 3 章関係)

(本人作成書類)

令和 4 年度 恵那市議会政務活動費実施（参加）記録書

議員名 堀 光明

1. 会の名称	恵那市議会 有志(新政会及び無党派議員)
2. 開催日時	令和 5 年 2 月 8 日 15 時 30 分 ～ 16 時 30 分
3. 会場	実践女子大学渋谷キャンパス
4. 参加議員名	鵜飼伸幸、堀 光明、伊藤勝彦、服部紀史、 後藤康司、西尾 努、柘植孝彦、太田敦之、 林 貴光、町野道明、山内敏敬
5. 参加人数	11 人
6. 内容（目的）	恵那市から学校法人実践女子学園に派遣されている職員の勤務の状況について視察するとともに、恵那市の先人の一人である下田歌子を学祖とする実践女子大学の取組等についての状況を知ること、今後の恵那市と実践女子学園との交流の促進を図ることを通して、市の活性化に資するようにする。 1. 実践女子学園の概要と現状 2. 渋谷キャンパス内の視察見学 3. 下田歌子記念館の視察見学 4. 向田邦子文庫の視察見学

注 1 関係書類を添付すること。

注 2 事業毎に別様として作成すること。

様式第1号(手引き第3章関係)

(本人作成書類)

令和4年度 恵那市議会政務活動費実施(参加)記録書

議員名 堀 光明

1. 会の名称	恵那市議会 有志(新政会及び無会派議員)
2. 開催日時	令和5年2月9日 9時30分 ～ 11時30分
3. 会場	衆議院第二議員会館
4. 参加議員名	鶴飼伸幸、堀 光明、伊藤勝彦、服部紀史、 後藤康司、西尾 努、柘植孝彦、太田敦之、 林 貴光、町野道明、山内敏敬
5. 参加人数	11人
6. 内容(目的)	内閣官房や国土交通省などの職員から、今後地方にとって重要となる以下の政策説明を受け、本市の市政に活かすため。 1.企業版ふるさと納税について 2.まちづくりのデジタルトランスフォーメーションの実現に向けて 3.デジタル田園都市国家構想総合戦略 4.GIGAスクール構想について 5.国土交通省の自動運転の取り組みについて

注1 関係書類を添付すること。

注2 事業毎に別様として作成すること。

新政会の視察・研修報告

2月8日（水） 東京都目黒区

株式会社 ホリプロでの研修

講演者 株式会社 ホリプロ・グループホールデングス 取締役 鈴木 基之 様

恵那市長島町正家出身 ホリプロ 50 年史の編集責任者

ホリプロは昭和 38 年設立(創業:昭和 35 年)でエンタメ事業を幅広く手掛けています。

会社の構成として、

① マネージメント事業部

次代のスターの発掘・育成から多彩なタレントのマネージメントまで

② 映像事業部

多様化するメディアにも対応し、高品質なコンテンツの制作

③ 講演事業部

世界で注目されるエンターテインメントの話題作をつぎつぎに上演

④ スポーツ・文化事業部

スポーツ選手・文化人の幅広い活動のサポート

⑤ 音楽事業本部

次代を超えて愛される音楽を提供

⑥ 経営管理本部

ホリプログループ全体を幅広くサポート

*その他、グループ会社も多数あり。

特に、和田アキ子さん、山口百恵さん、石川さゆりさんといった多くのタレント(400 名ほど)が在籍していて、驚きました。有名なタレントを発掘し世に出している事例を聞き驚きです。

エンタメの力は、それで人々に対して感動を与え、元気が出て、勇気が出る点も大きな効果であるとのことでした。

鈴木さんが佐藤一斉を知り、その素晴らしさに感動し、エンタメ業界の行動理念としていくことにも驚かされました。

特に恵那市の岩村町の町屋にたいして、ロケ地として素晴らしいと言われました。今後、さらに利用価値が上がるとの話でした。

恵那市から、派遣の職員もいます。恵那市の資源の磨き上げ、資源の発掘にたいして、タイアップしていけば、ロケ地、観光地として恵那市の魅力が高まると感じました。

2月8日(水) 東京都渋谷区

実践女子学園での研修

対応者 学校法人 実践女子学園 理事長 山本 章正 様

下田歌子さんの創設した、実践を女子学園を研修しました。

- ① 見学の精神 女性が社会を変える、世界を変える
- ② 教育の理念 品格高雅にして自立自営しうる女性の育成

山本理事長から毎年岩村を訪れ、下田歌子さんの墓をお参りしているとのことでした。又中等部等の学生も毎年岩村町を訪れ研修している姿もよく見ます。下田歌子賞に対しても多くの応募があり、恵那市との交流も活発です。在学生は約 4500 人ほど在籍しているとのことでした。学校の土地は元皇室の土地です。恵那市からの生徒に対して奨学金の制度ができたとのこと。建物は高層階で、中が吹き抜けとなっていて、通路から教室が見える構造です。大変透明性があると感じました。各教室の入口には番号がデザイン化されていました。高層階に素晴らしい庭園があり、凄いいと感じました。図書館については、近代的なイメージで、充実した図書にも驚かされました。低階層には、下田歌子資料館、向田邦子文庫があり、先人を顕彰していました。

現在、恵那市からの派遣の職員もいて、今後とも、実践女学院と恵那市の関係を強化して、発展していけば素晴らしいと思いました。

2月9日(木) 衆議院議員会館

講師 内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

参事官補佐 丸山 頼子 様

国交省 都市計画課 評価分析係長 石川 陽一 様

都市政策課 地方創生推進室 鈴木 豪 様

標題 デジタル田園都市国家構想総合戦略 (2023 年度～2027 年度)

テレワーク普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・進化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。としています。

デジタルの力を活用して地方の社会課題解決するため、①地方に仕事を作る。②人の流れをつくる。③結構・出産・子育ての希望をかなえる。④魅力的な地域を作る。この施策の実現のため、KPI を位置付けています。地方のデジタル実装に向けた KPI では、サテライトオフィス等の設置した地方自治体を 2027 年度までに 1200 団体にする等様々な取り組みを KPI に位置付けています。デジタル実装の基礎条件整備に関する KPI では、デジタル人材の育成を期間内に 230 万人とするなど、国が強力に進めるとしています。地域ビジョンの実現に向けた KPI では、スマートシティの選定数を 2025 年度までに 100 地域にする。地域限定型の無人自動運転移動サービスの実現を 2025 年度目途に 50 ケ所程度実現などとしています。

恵那市もデジタルの活用に対しては、幅広い分野で実施しています。今後とも、デジタルの活用は進んでいくと思います。国の膨大なメニューをうまく活用して、恵那市のデジタル化を進めていく必要があると感じました。

標題 企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)について

税制のポイントは、①企業が納税しやすいよう、損金算入による軽減効果に税額控除による軽減効果を上乗せしている。②寄付企業への経済的なみかえりは禁止している。③寄付額は事業費の範囲内とすることが必要です。

企業版ふるさと納税の企業側のメリットとして、企業のPR、企業の継続的な発展に寄与、地方公共団体等との新たなパートナーシップを構築、SDGs や ESG に寄与、被災地の復興に、創業地や縁のある地への恩返しに、寄付活動事業が社員のプラスに、といった企業からの声があります。

企業版ふるさと納税の活用例として、専門的知識を有する企業人材の活用、サテライトオフィスでのテレワーク施設運営、デジタル田園都市国家構想交付金の対象事業において、事業費の1割以上をふるさと納税を活用した場合、横展開型における最長5年間の事業計画の申請が可能となる。

恵那市もWRCで企業版ふるさと納税を活用しています。幅広い活用例があることも分かりました。恵那市としてもどのような事業に展開できるか検討して、活用の幅を広げていくことが重要であると感じました。

標題 まちづくりデジタルトランスフォーメーションの実現に向けて

まちづくりDXにより実現を目指す姿として、3つのビジョンがあり、豊かな生活、多様な暮らし方・働き方を支える「人間中心のまちづくり」の実現として、①持続可能な都市経営、②一人ひとりに寄り添うまち、③機動的で柔軟な都市設計です。

そして、4つの重点取り組みテーマがあります、①都市空間DX、②エリマネDX、③まちづくりデータの高度化・オープンデータ化、④3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化です。

岐阜県では、岐阜市が、3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事例があり。岐阜市中心市街地における道路空間を活用したまちづくりを推進しています。また、防災・災害分野で、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業などもあります。3D都市モデルを活用したシティプロモーション事業などもあり、恵那市の観光面で、市内全体を回遊できるようなアプリケーションも可能かなと思うところです。

講師 文部科学省 情報教育推進室 失調補佐 大塚 和明 様

標題 GIGAスクール構想について

GIGAスクール構想の推進で、1人1台の児童生徒端末の整備ができた。学校のICT環境の活用支援の充実も促進されました。

GIGAスクールを基盤とした令和の日本型学校教育は、個別最適な学び、協働的な学び、公務の効率化、教育データの利活用による効果的な学びの支援で、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」です。

岐阜県について、1人1台端末を授業で活用している学校の割合について、小中学校とも全国と比較した時、高い状況です。ICT機器を使用して、教職員と生徒がやり取りする割合について、ほぼ毎日、週3回以上の割合が全国と比較して高い状況です。自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でのICTの活用割合も高い。1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合も高い状況です。又、ICT支援員も4校に1人には少し低いが、全国的には高いレベルです。

1人1台端末活用に関する方針については、ガイドブックによるとされています。又、情報モラル教育の一層の充実に向けて、「児童生徒に情報モラルを身につけさせることが一層重要」としています。

今後とも、GIGAスクール構想の中でICT教育は進んでいくと思います。適切な使用で児童生徒の能力を引き出して欲しいと考えます。

講師 国交省 自動車局 自動運転線戦略室長 多田 善隆 様

標題 自動運転の取り組みについて

自動運転の意義として、①死亡事故の発生件数の大部分が「運転者の違反」に起因、②自動運転の実用化により、運転者が原因の交通事故の大幅な低減効果に期待、③高齢者等の移動手段や渋滞の緩和、生産性の向上、国際競争力の強化への効果に期待です。

自動運転のレベルは1から5まであり、レベル5では、いつでも、どこでも、無人運転です。

レベル1 実現できることとして、自動ブレーキ、自動で車間距離を維持などで、フットフリーです。

レベル2 実現できることとして、運転者の監視下、自動で車線変更などで、ハンズフリーです。

レベル3 一定の条件化で、実現できること、画面の注視、携帯電話の使用など、アイズフリーです。

レベル4 一定の条件化で、実現できること、無人運転などです。ドライバーフリーです。

レベル5 いつでも、どこでも、無人運転です。

自動運転技術の現状は、レベル3までは一部で一定の条件化、実用化されています。レベル4は、2025年目途に、特定条件化で、高速道路での実現が政府の目標です。

課題として、混在空間（複雑な信号や逆光、悪天候、障害物等の認識）で難しい。現在、全国で実証実験がされています。小型バス、中型バス、ハンドルがない車両等を要いての実証実験をしています。

中山間地で、免許の返納した人に対して、自動運転の車両が実用化されれば、大変便利になります。又、地域交通網で無人のバス等が運行すればコスト低減につながりと思います。早い、自動運転の社会の実現を望みます。